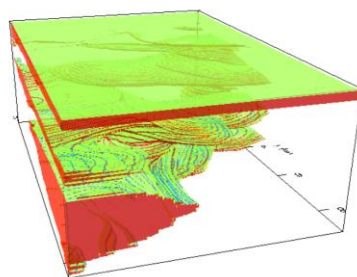


## オンライン講演会 「地中レーダによる遺跡調査」

2021年 6月27日(日) 13:00-18:00 講演はすべて日本語で行います。参加費無料。  
<http://magnet.cneas.tohoku.ac.jp/satolab/>

主催 東北大学 東北アジア研究センター コーディネーター 佐藤 源之  
協賛 IEEE Geoscience and Remote Sensing Society Tokyo Chapter、IEEE 仙台支部  
URSI (国際電波科学連合会) 国内委員会 Commission-F、物理探査学会  
電子情報通信学会 宇宙・航行エレクトロニクス研究会

地中レーダ(GPR: Ground Penetrating Radar)は電波を利用して地下埋設物の形状を土を掘ることなく見ることができる計測手法である。我が国では1985年頃から導入が始まり、世界的に見てもGPRによる遺跡探査が早い時期から活発に行われた。レーダ機器の開発、PCの能力向上によるデータ取得と信号処理、画像化のめざましい進歩によりGPRは広く利用されるようになってきた。本セッションではこれまで実施されてきたGPRによる遺跡調査の実例と成果を紹介するとともに、新しい計測手法の開発と学術的な発展を展望する。



13:00-13:10 開会

13:10-13:30 吉村 作治 (東日本国際大学 総長・教授)

エジプト調査に於けるハイテク技術の活用 (1) —大ピラミッドの調査を例に—

13:30-13:40 黒河内 宏昌 (東日本国際大学 エジプト考古学研究所教授)

エジプト調査に於けるハイテク技術の活用 (2) —第2の太陽の船調査を例に—

13:40-14:10 Gad El-Qady (エジプト国立天文学・地球物理学研究所・所長)

文化遺産のGPR調査 —エジプトでの実例—

14:10-14:40 城倉 正祥 (早稲田大学文学学術院教授、東アジア都城・シルクロード考古学 所長)

GIS・GPRを用いた遺跡・遺構の非破壊調査 —墳墓・寺院・都城の分析事例を中心に—

14:40-15:10 Dean Goodman (GPR-SLICE(c))

GPRによる遺跡探査の世界的な動向、信号処理・表示技術

15:30-16:00 金田 明大 (奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長)

GPRによる遺跡探査の可能性—実践と動向

16:00-16:30 ナワビ矢麻 (埼玉県立さきたま史跡の博物館 史跡整備担当 学芸員)

特別史跡・埼玉古墳群におけるGPR探査の実践と可能性

16:30-17:00 東 憲章 (宮崎県埋蔵文化財センター 主幹)

特別史跡西都原古墳群 (宮崎県西都市) におけるGPR探査の実践

17:00-17:30 佐藤 源之 (東北大学 東北アジア研究センター 教授)

東北大学におけるGPR開発と遺跡調査への応用

17:30-18:00 総合討論

参加ご希望の方は <http://www.cneas.tohoku.ac.jp/news/asia25/index.html> 「東北大学東北アジア研究センター創設25周年講演会とシンポジウム」のサイトで「参加登録」-「はじめてご利用される方」に進み「B3:地中レーダによる遺跡調査」を選んで登録してください。ZoomのURLがメールで届きます。  
問い合わせ先: [Motoyuki.sato.b3@tohoku.ac.jp](mailto:Motoyuki.sato.b3@tohoku.ac.jp), (電話/FAX) 022 795 6075 佐藤 源之